

# 大学生が家庭で「パパ・ママ体験」

# 育児への不安減った

大学生が子育て家庭に出向き、育児を体験する「一日パパ・ママ体験」事業の報告会が8日、神戸市中央区の神戸クリスタルタワーであった。報告に立った学生らは「笑顔で子どもに接するお母さんを見て、結婚や育児を少し前向きに考えられるようになった」「子育ての方法はいろいろ。自分のやり方でいいと楽になった」と育児に対する意識の変化などを語った。

(頁原加奈)

同事業は、若い世代に育児を身近に感じてもらうとうと、兵庫県と神戸新聞子育てクラブ「すきっぴ」が連携して、2016年度から取り組み、2年目となる。学生が2人一組で乳幼児のいる家庭を訪問し、持参したおもちゃで遊んだり、食事の世話をしたりするもの。本年度は、県内7大学の協力で、約70人の学生が参加した。

報告会には学生や親子、大学関係者ら約120人が集まり、5大学の学生10人が育児体験の感想を述べた。

## 神戸で報告会

## 「周囲の力借りていい」

た。父親が単身赴任中の家庭を訪問した神戸大発達科学部2年の福田夏実さん(20)と濱藤柚香子さん(20)は、「大変そうだけど、うまく周囲の力を借りていい。母親1人で抱えこまなくてもいいんだと分かった」と話した。

学生へのアンケートでは、体験前65%が「育児に不安がある」と回答していた。

子育て家庭での育児体験を語る学生たち①神戸中央区東川崎町1

たが、体験後には81%が「不安が軽減した」と答えるなど、学生の意識に変化が見られたという。

訪問を受けた1歳男児の母親は、大人のおしゃべりやドラマ鑑賞など、息抜きの方法を学生に伝授。「学生と一緒に楽しそうに遊ぶ息子を見るのも、成長を感じられてうれしかった」と話した。

# すきっぴ

神戸新聞  
子育てクラブ



④おもちゃで一緒に遊ぶ学生 ⑤離乳食を食べさせる学生たち